【茨城県潮来市】

特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

目的

乳幼児期を含め早期からの教育相談や就学相談を行うことにより、特に心身に障害を有する幼児、その保護者に十分な情報提供を行うとともに、認定こども園と教育的ニーズと必要な支援について共通理解を図ることにより、学校へ就学する際の不安の解消を行い、安心した学校生活を送ることができるよう就学支援相談員を配置する。

成果

○　児童・保護者個々に応じた支援体制が整えられ、認定こども園と小学校との円滑な情報共有が可能となり、相互理解が進んだ。

○　相談件数の増加、相談内容が多様化してきており、さらなる関係機関との連携強化が重要である。

事業内容

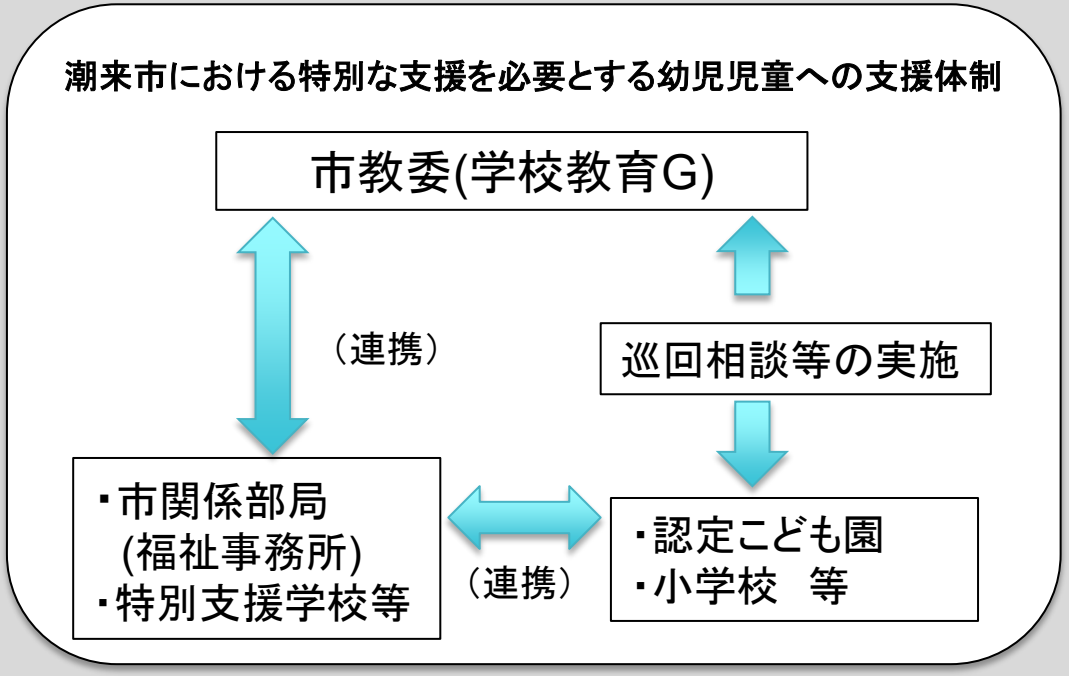
①　福祉事務所子育て支援課と連携し、就学支援相談員の事業内容等を「子育てガイドマップ」（福祉事務所作成）に掲載して、広く周知した。

②　就学支援相談員及び特別支援教育COによる認定こども園への巡回相談を実施し、支援を必要とする幼児の教育的ニーズや具体的な支援等について把握するとともに、就学先である小学校と情報共有を図ることで、認定こども園と各小学校、市教育委員会との連携を強化した。

③　福祉事務所子育て支援課、保健センター、認定こども園、市教育委員会が連携し、就学支援相談員による移動発達相談を実施することで、保護者に十分な情報提供を行うとともに、必要な支援等について共通理解を図った。

④　保健センターや生涯学習課による「訪問型家庭教育支援事業」と連携し「「潮来市子どもサポート」（冊子）を配布することで、発達支援や子育て支援等について保護者へ周知した。

⑤　支援を必要とする幼児児童にかかる情報の収集及び共有を図るため、就学支援相談員による認定こども園、学校への定期的な訪問を実施した。

⑥　就学支援相談員による認定こども園や学校での教職員、保護者及び児童との面接相談や就学相談を実施し、就学及び支援等にかかる情報提供を行うとともに、認定こども園、学校、市教育委員会が連携し、特別支援学級体験会を実施した。

⑦　特別支援学校へ就学する幼児児童にかかる教育的ニーズ及び具体的な支援等について、就学先である特別支援学校と共有し、認定こども園、学校、市教育委員会と特別支援学校との連携を図った。